

2018 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

## いじめをなくすために

(原文)

森田 麻椰 (13 歳)

埼玉県

本庄東高等学校附属中学校

十八歳未満の子供の自殺件数は毎年三百人以上に上っています。その要因としてはいじめや友人関係といった学校に関わるものが多数を占めています。私はこの様な事を目にするたびに心が痛みます。なぜなら、私自身も小学生時代に女の子の友達の中で仲間外れになったことがあるからです。私が小学三年生の時、突然休み時間に遊ぶグループから仲間外れにされる様になり、折り紙やストラップなどの持ち物が盗まれたりしました。当然のことながら担任の先生は気が付く事はありませんでした。この時の原因としては、自分と価値観の違う友達を受け入れる事が出来ず、排除しようとする心が動いたからです。そして、それに周囲の友達が同調した為仲間外れという形で現れたと思います。このような状況は二年くらい続きましたが、両親と担任の先生の計らいによりこの程度で収まりました。私は仲間外れにされている時、とてもさみしかったです。話し相手はいつも何人かの男の子の友達でした。女の子達はいつもかたまってしまい、私を避けていたため、私は一人で図書室に居ざるを得ませんでした。今、思い出してもとても悲しい出来事でした。どうしてこんな思いを私だけがしなくてはいけなかったのか私には分かりませんでした。

いじめが起こる理由はたくさんあると思います。私が経験したように自分と違う価値観の人を受け入れられず、嫉妬心や嫌悪感などが原因で起こるものがあります。また、家庭的に問題を抱えていて家でのストレスが原因でいじめが起こる場合もあります。その他にもストレス解消だったり、単なる八つ当たりだったり、また、みんながやるから、という軽い気持ちから起こる場合もあります。どんな理由があろうと人をいじめることは許されないことなのです。毎年十二月十日は世界人権デーとされています。この世界人権宣言は全部で十三条ありますが、第一条にこんな文章があります。『すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。』いじめは必ず「いじめる人」と「いじめられる人」が存在します。そのどちらの人にも権利や自由がありますが、立場によって違いがあります。いじめる側は何らかの理由があり、自分の意志でいじめをしています。しかし、いじめられている側は自分の意志でその立場に居る訳ではありません。ですから、いじめられる側は自由や権利を尊重されていない事になります。

いじめをなくす為に、私なりにいじめの解決方法を考えてみました。いじめの解決方法としては、やはり学校と家庭の連携を良くする事だと思います。連携を良くすれば、それぞれの強みを発揮して良

い環境を、築く事が可能です。また、家庭と学校での人権教育、「いじめはやってはいけない、いじめを受けたと感じたら、大人に報告する」という事を教えます。それと同時に、学校と地域で子ども達を見守り、いじめなどの情報や、子ども達の状況を共有できるシステムをつくります。これは私一人の力では出来ませんが、中学生である自分が出来る事も、考えてみました。まずは、いじめの犠牲になっている子を心配してあげる事です。学校でのいじめの現状を一番理解しているのは、先生でもなく親でもないのです。同じ立場におかれている自分自身です。ですから、いじめの犠牲になっている子と一緒に居てあげるだけでも、いじめの被害を少なくしてあげられると思います。また、意地悪をしている子が居たら、「ダメ」と注意する事です。もし、直接言えなくても、大人に相談するなど、何か行動を起こせば、状況を変える事が出来ると思います。

自分が出来る事は、ほんの些細な事ですが、私達が、同じ意識を持って、それを積み重ねる事で、日本中の学校がいじめのない楽しい学校に、変わると思います。